

2020年度 支援の柱

1. 海や船に関する事業

人々の生活と海との関わりに注目が集まり、国内外で海洋の重要性が再認識される状況の中、様々な要素が複雑に絡み合う海洋の問題の解決には、地球規模の連携とそれを担う人材の育成が必要となっています。

わたしたちは、次世代に豊かな海を引き継ぐために、国の内外において、海洋の総合的管理の視座のもと、国際的課題に的確に対処できる人材の育成や国際協調のためのスキームの構築、海洋の利用と環境保全の調和を図る活動や産官民学等の多様な関係者による分野横断的な連携を推進するとともに、各種制度構築や社会的な環境整備を行うため、次のテーマを柱に支援します。

(1) 海と船の研究

世界的に高まる環境問題に対応する技術の研究開発や国際基準等の作成、海外における積極的な情報収集、海底地形を解明するための国際的な取り組み、海洋開発分野をはじめとした人材育成、船舶運航に係るデジタル化促進に向けた取り組み等、産業基盤の強化を図るための活動

(2) 海をささえる人づくり

ア. 国際機関や研究機関等との連携をとりながら、海洋問題に科学的知見を踏まえて効果的に対処するために必要な知識、能力を持った人材の育成や国内外を含めた幅広いネットワーク構築を図るための活動

イ. 大学における学部横断による学際的な講座の設置など、海洋に関する総合的な教育及び研究を推進する活動

ウ. 地球規模で進行する海洋生物資源の減少などに対処するために必要な、総合的、持続的な資源管理の取り組み

(3) 海の安全・環境をまもる

ア. わが国の「海洋基本法」の制定に伴い、「海に守られた日本から、海を守る日本」に向けて、陸からの視点ではなく海からの視点に基づく総合的な海洋政策の立案・実行を積極的に推進し、支えるための民間の活動

イ. 国際的な海洋管理のための新たな枠組みの構築、法の秩序・遵守に基づく海上安全及び海洋環境保全の確保を促進させる活動

ウ. 海洋ごみ等の環境問題に対処するために企業、研究機関や地域コミュニティなどの関係者と科学的知見に基づいた取り組みを推進する活動

(4) 海と身近にふれあう

ア. 生活をとりまく様々な場や機会を利用して、次世代を担う子どもたちを中心に、海への関心を高めるとともに、海と関わる行動へとつなげるための活動

イ. 学校や博物館等の教育機関や自治体等の多様な地域関係機関との連携により実施する海や船に関する事業や体験学習等を通じた理解促進活動

ウ. 海とともに暮らしてきた人々の生活文化や技術を後世に継承するための活動や地域の発展を目指す持続可能な活動

(5) 海洋教育の推進

海洋基本計画に基づきわが国の初等中等教育における海洋教育を広く推進する活動

2020年度 支援の柱

2. 社会福祉、教育、文化などの事業

国や地方自治体の厳しい財政状況や人口減少、高齢化、少子化など、変革期を迎えた日本はたくさん課題を抱えており、またこれらの社会課題は刻々と複雑化し、細分化しています。

わたしたちはこのような状況に素早く対応しながら、「公」の仕事を「民」の立場から支え、助成先とのパートナーシップを通じて、個性豊かで活力に満ちた、みんながみんなを支える社会を作り出すことを目指し、次のテーマを柱に支援します。

(1) あなたのまちづくり（つながり、支えあう地域社会）

障害者の地域生活や社会参加を支える仕組みづくり

(2) みんなのいのち（一人ひとりを大事にする地域社会）

ア. 在宅ホスピス・緩和ケア等の推進

イ. 医療依存度の高い子どもと家族を地域で支える取り組み

(3) 子ども・若者の未来（人を育み、未来にわたす地域社会）

ア. 特別養子縁組や里親など子どもが家庭で暮らすための取り組み

イ. 貧困の世代間連鎖を防ぐ施策を実証する取り組み

(4) 豊かな文化（豊かな文化を培う地域社会）

障害の有無を超えた価値ある芸術作品を、社会に伝え広める取り組み